



【平成24年の内水面漁業漁獲量が全国第2位】

平成24年の全国の内水面漁業漁獲量(平成24年漁業・養殖業生産統計概数値：農林水産省)は前年よりも約1,400トン減の32,950トンで、都道府県別では北海道が第1位で14,973トン、次いで青森県5,881トン、島根県2,074トン、茨城県1,699トン、岩手県999トンの順となっております。

青森県の主な漁獲物は、シジミ、サケ類、シラウオ、ワカサギ、コイ、フナなどで、シジミ、シラウオ及びワカサギは全国第1位、コイ・フナが第2位、サケ類、エビ類及びウナギが第3位となっております。

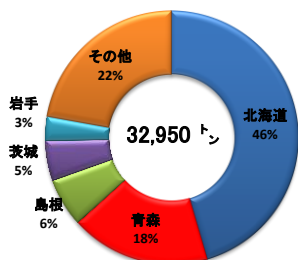


図 都道府県別

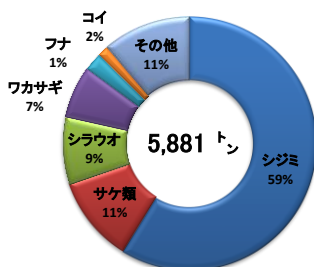


図 県魚種別

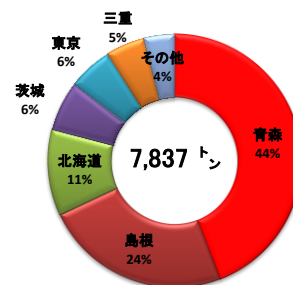


図 シジミ

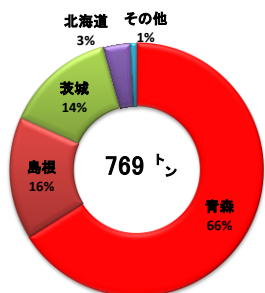


図 シラウオ

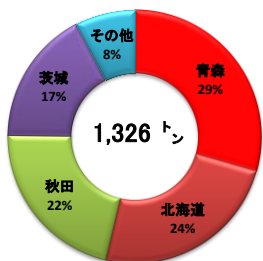


図 ワカサギ

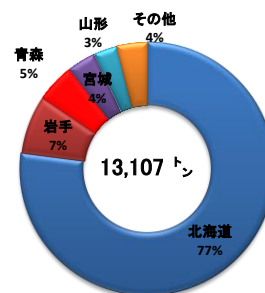


図 サケ類

【公開デーを開催しました】

8月4日(日)、十和田市奥入瀬川河川敷において、奥入瀬川クリーン対策協議会主催の第30回奥入瀬川クリーン作戦(河川清掃活動)と協賛して当研究所の公開デーを開催しました。当研究所のコーナーでは普段見られないイトウ、



イワナ、ヒメマス、スギノコなどの淡水魚の水槽展示やパネルによる研究紹介のほか、シジミ重量当てクイズ、シジミ釣りゲームを行いました。当日は、天気にも恵まれ、たくさんの方に訪れていただきました。

シジミ釣り

【 インターンシップ・職場体験 】

8月5日～9日と26日～30日の2回にわたり北里大学獣医学部3年生の学生2名がインターンシップとして、当研究所で職場体験を行いました。飼育池の掃除や飼育魚への給餌、採卵作業、シジミの調査や測定など、これまで経験したことのない作業を一生懸命に体験していました。



魚体測定



DNA抽出



採卵作業

【 全国湖沼河川養殖研究会が開催されました 】

9月5日(木)～6日(金)の2日間、千葉市において全国湖沼河川養殖研究会第86回大会が開催されました。全国から約100名の参加者が集まり、「水産物の生息環境保全と21世紀の内水面－多面的機能を有する内水面の水産業－」を中心課題として、シンポジウム、基調講演、話題提供、研究発表、研究討議などが行われました。



来賓挨拶



蛭名部長発表

北日本ブロック代表として、当研究所の蛭名調査研究部長が「小川原湖の環境変化とシジミによる水質改善効果検証への着手」と題して研究発表を行いました。なお、平成28年度は青森県で開催される予定となっております。

【 愛魚週間の式典が開催されました 】

9月25日(水)、南部町立町民ホール(楽々ホール)において第49回青森県愛魚週間の式典が開催されました。

主催者挨拶の後、来賓祝辞、内水面漁業の功労者表彰(3団体)、絵画・標語の優秀作品表彰(名久井小学校、剣吉小学校、向小学校の児童)が行われ、最後に当研究所の相坂主任研究員が「青森県の川や湖の自然と生き物」と題して講演を行いました。



児童の表彰



相坂主研講演

また、式典に先立ち、馬淵川支流の河川敷で河川清掃とヤマメの放流が行われました。

【 今期のサケの来遊は？ 】

調査研究部主任研究員 相坂 幸二

(1) 太平洋側の河川回帰

これまでの河川の年齢別回帰尾数(河川捕獲尾数)から、ある年齢とそれよりも1年高齢(3年魚と4年魚、4年魚と5年魚など)の関係式を求め、その関係式から翌年の回帰尾数を予測した。

今漁期の太平洋5河川の回帰尾数は3年魚1万尾、4年魚5万尾、5年魚7万尾の計13万尾(95%信頼区間:5~19万尾)で、太平洋側の放流計画に必要な採卵数を確保できること、また、回帰のピークは11月下旬から12月中旬になると見込まれる。

(2) 太平洋側の沿岸回帰

親潮の勢力と沿岸回帰尾数(沿岸漁獲尾数)の関係式を用いて予測を行った。今漁期の回帰尾数は、昨年を上回る70万尾(95%信頼区間:29~104万尾)で、回帰のピークは沿岸の水温が下がり始める11月以降になると見込まれる。

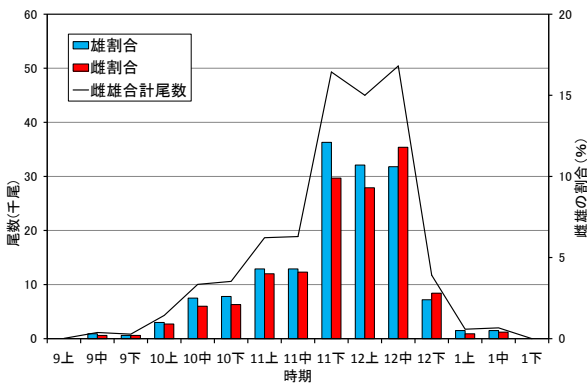


図 平成 24 年漁期の河川捕獲尾数(太平洋)

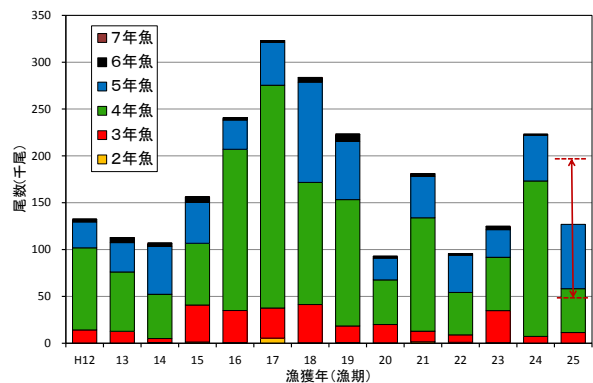


図 平成 25 年漁期の河川予測尾数(太平洋)

【 十和田湖のヒメマス販売 】

生産管理部主任研究員 前田 穣

9月25日から10月1日にかけて、千葉県柏市の柏タカシマヤにおいて「十和田奥入瀬特集」が開催され、ヒメマスやナガイモ、ガーリックポーク等のPRと販売が行われました。

このイベントは十和田市とわだ産品販売戦略課が企画したもので、「イベントの目玉として生きたヒメマスを展示したい」として、当研究所に技術支援の依頼がありました。

体重200gのヒメマスを生きたまま輸送した経験は当研究所にもなかったので、水温などの条件を検討し、6月に東京までの輸送試験を行いました。その結果、「飼育水の溶存酸素量が過剰になると苦悶遊泳や横転すること」、「苦悶遊泳や横転しても、活力が残っていれば、溶存酸素量が適度にある飼育水に収容すると回復すること」を確認し、本番を迎えました。

9月23日の夕方に16尾のヒメマスを発砲スチロール箱に入れて、当研究所からクール宅急便で発送し、25日の朝に展示用の水槽に収容しました。収容の時点では8尾が苦悶遊泳や横転を繰り返しており、活力がどの程度残っているのか心配されましたが、展示用水槽に収容してから30分程度で5尾は正常に回復し、1週間、無事に展示することができました。

このイベントではヒメマスの塩焼きや鮮魚販売も行われ、とても好評でした。このような取組みを通じて十和田湖のヒメマスの知名度が向上し、「十和田湖に行ったらヒメマスを食べよう！」という観光客が増えることを願いつつ、今後も技術支援を続けていきます。



ヒメマス水槽展示



ヒメマス焼き物



ヒメマス鮮魚

【 アメマスの駆除が行われました 】

9月20日(金)に大畑川の保護水面で、スギノコ(サクラマスの地方種)保護のために、アメマスの駆除作業が行われました。平成11年11月に生息が初めて確認され、それ以降駆除を行っているもので、今回は10名(大畑町漁協4名、むつ市役所大畑庁舎1名、むつ水産事務所3名、当研究所2名)が参加して、本流、上狄川、長次郎川で計36尾を採捕しました。駆除効果を期待したいところです。



駆除作業



採捕したアメマス

【 9月までの主な行事など 】

月 日	行事など	場 所
4月17日(水)	サクラマス・サケ放流式	深浦町追良瀬川河川敷
5月14日(火)	三本木高校スーパーサイエンスクラブ	所内
5月17日(金)	すずらん保育園所内見学	所内
5月22日(水)	島根県議会議員来所	所内
5月27日(月)	青森県養鱒協会通常総会	十和田市
5月29日(水)	サクラマス放流式	東通村老部ふ化場
6月20日(木)	ヒメマス放流式	小坂町十和田湖ふ化場
6月22日(土)	小川原湖漁協通常総会	東北町
7月10日(水)	鱒ヶ沢せせらぎ会来所	所内
7月26日(金)	青森県鮭鱒増殖協会太平洋部会情報交換会	十和田市
8月7日(水)	馬淵川さけます増殖漁協通常総会	南部町
8月27日(火)	芦野頭首工魚道に関する検討会	弘前市
9月5日(木)	全国湖沼河川養殖研究会	千葉市
9月10日(火)	葛川魚道施設改良に関する懇談会	十和田市
9月25日(水)	愛魚週間式典	南部町
9月28日(土)	三八漁業士会研修会	八戸市